

わが子に合う大学はどう選ぶ？

# 保護者のための 最新大学情報

多くの大学が、社会の変化に合わせた学びを提供しようと  
さまざまな改革に取り組んでいます。  
保護者の時代からどう変化している？ わが子に合う大学は？  
後悔のない進路選択ができるよう、保護者の方も一緒に、  
それぞれの大学の最新事例に注目していきましょう。

保護者のギモンに専門家がアドバイス  
大学選びQ&A集 ..... p.40

大学教育 最新情報 Trend of University

キャリア教育

國學院大學 ..... p.44

新しい学び

Co-Innovation University ..... p.46

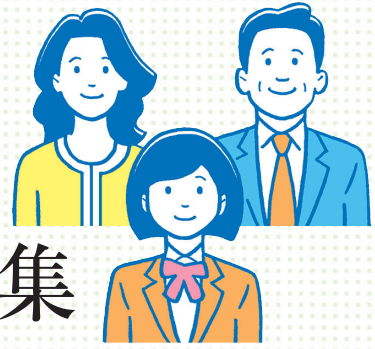
成蹊大学 ..... p.48

東京家政大学 ..... p.50

新しい入学者選抜

神奈川大学 ..... p.52

保護者のギモンに専門家がアドバイス



# 大学選びQ&A集

どんな大学や学部に進学するかは、高校生にとって今後のキャリアや人生に関わる大きな選択です。特に学部・学科の多様化など大学の変化が著しい現在、その選択はより悩ましいものになっています。そんなわが子に対し、保護者はどのようにサポートをしていけばいいのでしょうか。よくある悩みや相談事をピックアップし、専門家が回答します。



## 大学選びに

### 保護者はどのように関わればいい？

A

保護者はいわば「ツッコミ役」。大切なのは「答え」ではなく「問い」

高校生はまだ社会のことをよくわかっていません。保護者としては、心配になって、積極的にわが子の進路選択に干渉したくなるのは無理のない話です。ただし、心配なあまり、保護者が自分の意見を子どもに押し付けたり、無理に誘導しようとしたりするのはNGです。

調べ、考え、決断する貴重な成長の機会です。それを奪ってしまうのはもったいない。また、高校生が自分のやりたいことより保護者の意見を優先した場合、進学後にアンマッチが起こるリスクも高くなります。

「それはほかの学部でも学べるんじゃない？ そっちは調べてみた？」などの問いを重ねることによって、本人のリサーチや思考のブラッシュアップをサポートするのです。このステップをしながら、本人の主体性を尊重しながら、自分に合った進路選択につなげていくことができます。

った事態にもなりかねません。

そこで、私が提案したいのは、保護者が本人の選択を助ける「ツッコミ役」になることです。まずは子どもに自分で考えさせる。そのうえで子どもが出した意見に対して、「それはほかの学部でも学べるんじゃない？ そっちは調べてみた？」などの問いを重ねることによって、本人のリサーチや思考のブラッシュアップをサポートするのです。このステップをしながら、本人の主体性を尊重しながら、自分に合った進路選択につなげていくことができます。



### 最新の大学事情はどうやって調べればいい？

A

ジャンルの異なる複数の大学・学部に関して深く調べる

大学での学びは大きく変化しています。保護者世代の学生時代の知識・経験だけでは子どもへの適切なアドバイスが難しくなっているのは事実です。ですから、子どもと共に保護者も大学の最新動向を把握しておくことは大切です。

しかし、今の大学は多様化が進んでいるので、すべての情報を網羅的にインプットすることは不可能。そのため、まずは気になる大学・学部、あるいは原内など身近な大学に絞って、パンフレットやWebサイトで、教育内容・カリキュラムなどをじっくりリサーチしましょう。オープンキャンパスがあれば足を運んでみるのもいいですね。ジャンルの異なる複数の大学に関して深く調べていくと、最新の大学動向の相場観が見えてくるはず。できれば、子どもが高1の段階でこのようなりサーチに着手できれば、情報不足で選択を誤るリスクは減らせます。



回答してくれたのは…

進路アドバイザー  
倉部史記氏

企業広報のプロデューサー、私立  
大学専任職員、予備校の総合研  
究所主任研究員、大学連携プロデ  
ューサーなどを経て、現在はフリーラ  
ンス。著書に『ミスマッチをなくす進  
路指導』(ぎょうせい)など。

## 学部・学科がたくさん あってどう選べば

### いいのかわからない



今や、かつては存在しなかった名  
称の学部・学科が増加し、選択肢  
が多すぎるといふ悩みも増えてい  
ます。保護者世代は昔からある法  
学部、経済学部などが安心だと考  
えがちですが、よく知らないからと  
他を切り捨てるのもつたいない。

そこでお勧めしたいのは、ざっく  
り2系統に分けて考えてみる

もう一つは「ジャングル探索型」。  
興味があることをとっかかりに学  
びのジャングルに踏み込んでいき、  
学ぶなかで新しい発見をし、やりた  
いことが見えてくるというタイプで  
す。多くの学部はこちらに属しま  
す。こちらで重要になるのは本人  
の興味・関心。それが環境や地域で  
も、あるいはゲームやマンガでも構  
いません。その興味・関心にフィット  
する学部・学科名を探すところか  
ら始めてみましょう。



### 「山登り型」と「ジャングル探索型」 の2系統に分けて考えてみる



## やっぱり偏差値や 知名度は 重視したほうがいい？



### 大学の偏差値や知名度より 本人の希望や適性を重視したい

もちろん、大学の偏差値や知名  
度が高いほうが保護者としては安  
心できるという考え方を安易に否  
定することはできません。しかし、  
だからといってそれだけにとられ  
て大学・学部を選ぶのはリスクが高  
いと言えます。

メリットは意欲的に学んで成長でき  
た結果、享受できるものなのです。  
特に保護者世代は知名度の高い  
大規模総合大学に魅力を感じる  
ことが多いですが、小規模校にも、  
一人ひとりへのきめ細かいケアやサ  
ポートがしっかりしているといったメ  
リットがあります(もちろん個々の  
大学によりますが)。そういった点  
も意識しつつ、まずは、「本人が何  
に興味があるのか」「本人にどんな  
環境が合うか」といったことを重視  
することのほうが大切です。





## 将来の夢がまだ

### 決まっていないわが子… 何学部を目指せばいい?



### A

#### 「ジャンゲル探索型」に絞って 現在の興味・関心を軸に考える

本人が将来目指す職業が、まだ決まっていないなら、前のQでお伝えした「山登り型」の分野は除外して考えたほうがいいでしょう。例えば、看護師になりたいと思っていなのに看護学部に進学すると、途中で「やっぱり向いてない」となったときに方向転換ができません。

ですから、「ジャンゲル探索型」から選択することになります。その場合は、前のQでも回答したとおり、本人の興味・関心がとっかかりです。「それだと、将来の仕事につながるだろうか? ゲームやアニメ

しか出てこないのでは?」という保護者もいるでしょう。しかし、これも前述のとおりそれなのです。

大学での学びは懐が深く、多様です。例えば「KPOPが好きだから国際系の学部に進んで韓国関連の科目をたくさんとっている」「ゲームが好きだから、経営学部でゲーム業界のビジネスについて学んでいる」という学生もいます。

どの学部で何が学べるかを決めてかからず、自分なりのキーワードを糸口に検索してみる。この方法なら意外な発見もあるはずですよ。



## 地元進学に

### こだわるのは子どもの 選択肢を狭める?

### A

#### まずは地元・都市部に限定せず 「学びたいこと」優先で検討を

実家から通える範囲で志望校を選ぶとなると、選択肢はどうしても絞られてしまいます。

できれば、進学先選びの最初の段階では、エリアで制限することはせず、本人の「学びたいこと」を最優先に、都市部も地方も含めて幅広い選択肢から比較検討することを後押ししてあげてほしいですね。

親元を離れることは本人の自立や成長を促す面もあります。地元を出ることで多様な価値観と出会い、視野や人間関係が広がるメリットもあります。そうした点も踏まえ、ある程度本人が進学先のピックアップを進めた段階で、現実的に取りうる選択肢を話し合ってみましょう。お金の問題に関しては、奨学金利用や志望校の学費次第で経済的負担を軽減できる場合もあります。

## 高校の文理選択。

### どうアドバイス したらいい?

### A

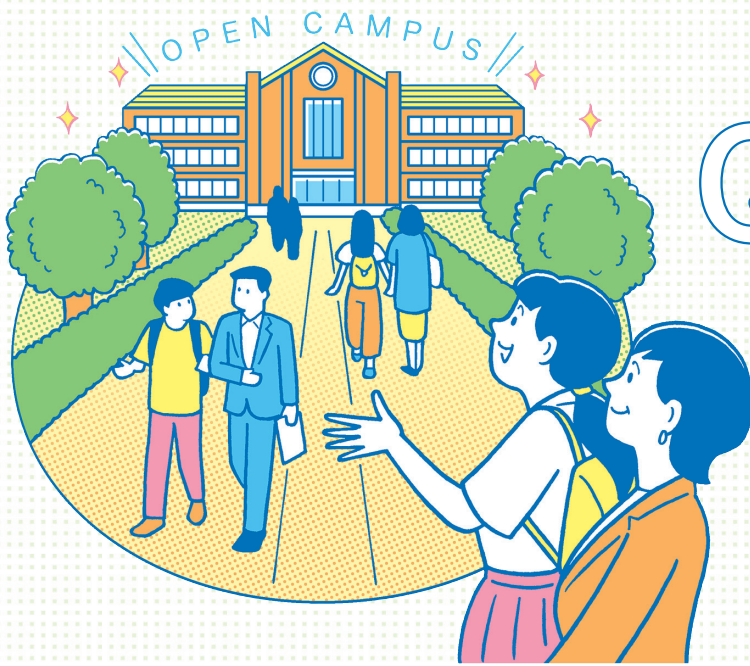
#### 安易な文理選択はその後に影響。 決める前に十分な情報収集を

文理選択を、「数学が苦手だから」と不得意科目だけを理由に決めたり、「女子だから文系」という先入観だけで決めたりするのは問題です。高校1年生では大学の学問に關しても世の中の職業に關しても情報のインプットが足りていません。ですから、文理選択の前に、興味がある学問や職業について、できるだけ情報収集に努めることが大切

です。親子でオープンキャンパスに行くのもいいですね。必ず文理両方の話を聞くことをお勧めします。

文理どちらかに決めたとしても、受験に不要な科目を切り捨て過ぎるのもNG。国公立が受験しにくくなりますし、今は文理融合型の学問や職業も広がっています。将来も考えて、幅広く学ぶことの大切さをアドバイスしてあげてください。





## Q オープンキャンパスは 保護者が同行 してもいい?

**A** 大学側も保護者同行を前提で  
開催しているので問題なし

自分たち世代の感覚からすると、「オープンキャンパスについていくのは過保護では？」と感じる保護者も多いかもしれません。しかし、今は大学側も保護者が同行することを前提でオープンキャンパスを開催していますし、実際に同行する保護者も多いですから、その点は気にする必要はありません。そもそも

大学選びの意思決定に保護者は関与するわけですから、不安を解消する機会にするといでしょう。そこで大切になるのが大人ならではの視点です。高校生はキャンパスの立地や施設・設備、先輩たちの人柄などに目が行きがち。保護者はその補完役として、例えば、職員が担当する相談ブースで、奨学金

制度やキャリアセンターの取組といったことを細かく確認するといでしょう。教育内容について理解を深めたいなら、研究室棟に研究室ごとに掲示されている研究発表ポスターを本人と一緒に見て回るのもお勧めです。また、相談ブースで他大学の同系統の学部との違いなどを質問すると、比較検討の材料にもなります。なお、オープンキャンパスは高1の夏などできるだけ早い時期から、なるべく複数の大学を訪問することをお勧めします。

## Q 今、社会的ニーズが 伸びている分野に こだわるべき?

**A** 社会的な人材ニーズには  
流行り廃りがあるので要注意

今であれば、例えばデータサイエンスやAIなどが社会的に注目されている分野で、関連する大学の学部・学科新設も増えています。卒業後の就職を意識するなら、こうした人材ニーズが伸びている分野に関連する学部がいいだろうと考える保護者は多いのではないのでしょうか。もちろん本人がデータサイエンスやAIに興味があるなら何の問題もありません。

しかし、本人の興味・関心を度外視して、社会的ニーズ優先で決めることは、再三お伝えしているとおりお勧めできません。そもそも、人材ニーズには流行り廃りもあります。今、ニーズが急騰している分野は、数年後には供給過多になる可能性だってあるのです。それでも生き残るのはその分野が好きでスキルを磨いてきた人たち。やはり興味・関心が第一なのです。

← ギモンが解消できたら次ページ以降で個別の大学についてチェックしてみましょう